

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目

### (評価項目の構成)

#### .理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### .安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### .サービスの成果に関する項目

#### 【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

- 項目番号23 初期に築く本人との信頼関係
- 項目番号24 初期に築く家族との信頼関係
- 項目番号25 初期対応の見極めと支援
- 項目番号26 馴染みながらのサービス利用
- 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

- 項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援
- 項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援
- 項目番号60 お金の所持や使うことの支援
- 項目番号61 日常的な外出支援
- 項目番号62 普段行けない場所への外出支援
- 項目番号63 電話や手紙の支援
- 項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

#### 【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム 猪苗代

(ユニット名) ユニット1

記入者(管理者)  
氏名 佐藤 鈴子

評価完了日 平成20年3月25日

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として「人間としての尊厳を守り、人間らしい心豊かな暮らしを提供する」がある。また、ホームの理念については11月のスタッフ会議の際、理念とは何か、何故重要かを説明し、どのようなホームにしたいかを話し合った。また、BS法を用いて職員全員が意見を出し、職員一丸となって理念を作りあげた。	ホームの理念を常に意識したケアができるように半年に1度は理念の振り返りをし、方向性を確認しながら、ケアの質向上に努めていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新入社員の研修時には法人の理念を説明し、理念とは何か、どのような方針でケアをしていくかを説明している。法人の理念、ホームの理念を玄関の入り口に掲示し、出勤時に意識できるようにしている。また、ホームの理念はリビングにも掲示し、毎日の申し送りの際に職員で唱和している。理念をカードにし、職員全員が携帯している。	スタッフ会議の際、理念について振り返る機会をつくり、理念を意識したケアを継続できるように努めたい。
3	家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	法人の理念はパンフレットに掲載し、必ず見学者などの来訪者には説明している。また、入居契約時にご家族に再度説明している。その他、玄関の入り口やリビングに掲示するなど、目にふれる機会を多くしている。	ご家族や見学者だけでなく、地域の方にも法人の理念やホームの理念を知っていただき、理解していただけるよう今後検討していきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の際は、近所の方に明るく挨拶をし、時には立ち話をしたり、近所のおまんじゅう屋さんでお饅頭やお茶をいただいたりしている。また、近所の方がボランティアで月に一度折り紙を教えに来所してください。	近所の方にお茶飲みに来ていただけるよう声かけしても、なかなか立ち寄っていただけない為、今後どのようにすればもっと気軽に立ち寄っていただけるかを検討していきたい。
5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、親睦会に参加したり、ゴミ拾いや草むしり、側溝掃除にも入居者と一緒に参加している。地域のお祭り(花嫁行列、水神様のお祭りなど)に声をかけていただき参加した。また、町の敬老会に参加したり、他の事業所の盆踊りにも参加した。近所の保育園に訪問したり、保育園児が節分の豆まきに来所していただくなど交流に努めている。	今後も地域の行事や活動には積極的に参加し、地域の一人として馴染めるように努めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	<p>管理者やユニットリーダーは入居相談以外にも地域 の方の相談にのったり、民生委員のグループホーム見 学及び研修の受け入れをしているが、地域貢献まで には至らない。</p>	<p>認知症ケアサポーターキャラバンメイトの育成に協力 する予定である。また、管理者と計画作成担当者は認 知症介護研究・研修東京センターで学んできたセン ター方式を地域に推進していきたいと考えている。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>今回、開所して初めての自己評価及び外部評価の 為、評価の意義や目的を職員に説明した。また、職員 全員が自己評価の項目に目を通し、全員で自己評価 に取り組んだ。</p>	<p>今回の外部評価後、評価を受け止め、改善すべき点 を全職員で共有した上で改善に努めたい。また、自己 評価や外部評価の時に限らず、常に振り返るよう努め たい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の準備は進めていたが、開催まで には至っていない。</p>	<p>ようやくホームが落ち着いてきた為、早急に運営推進 会議を開催できるよう努めたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる</p>	<p>開所前の新入社員研修には、猪苗代町保健福祉課 の担当者を講師として招き、「猪苗代町における介護 保険の現況及びグループホームに望むこと」について お話いただいた。また、常日頃、些細なことで確認し たり、相談している。近日、猪苗代町介護支援ネット ワーク会議並びに介護保険サービス事業者連絡会議 の合同研修会に出席予定である。</p>	<p>今後も猪苗代町保健福祉課の担当者と連携をとり、 認知症ケアサポーターキャラバンメイトの育成に協力し たいと考えている。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者やユニットリーダーは地域福祉権利擁護事業 や成年後見人制度について学んでいるが、制度に関 しての理解がまだ不十分な為、支援できるまでに至 っていない。</p>	<p>今後、地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度の 研修や講演会がある場合は職員も参加するようにして いきたい。また、入居者の方が必要になった際に支援 できるような体制を整えたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者やユニットリーダーは高齢者虐待防止関連法 の研修などに参加しているが、職員は参加していな い。しかし、ホームに虐待防止のマニュアルがあり、暴 力や暴言だけが虐待ではないことを話している。どん な些細なことで虐待に繋がらないかを常に考えケア をしている。</p>	<p>ホームでは決してあってはいけないことなので、スタッ フ会議等で虐待について話し合ったり、職員に学ぶ機 会を作りたい。また、どんな些細なことも見逃さず、常 にケアに対しての自己反省を促し、啓蒙していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>今後もホームの見学をしていただき、ホームの方針等にご理解、ご納得いただいた上で入居していただくように努めたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>入居者の方が限られた職員だけではなく、全職員に意見や不満、苦情などを話せる関係作りに努めたい。また、性格的に意見や不満、苦情が言えない入居者に関しては、今後どのように声を聞いていけば全職員で検討していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>現在、手紙を書いている職員が限られている為、今後は全職員が手紙を書くようにしていきたい。また、定期的に写真入りの職員紹介などの同封も検討していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>よりよいホームづくりの為に、意見や不満、苦情などを教えていただけるようにするには、どのようにしたらよいか今後検討していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>今後、職員の意見や提案をケアプランなどにも反映させていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>現在、入居者の生活状況に合わせて、勤務時間を設定しているが、今後入居者の生活状況が変化した場合には迅速に勤務時間の変更ができるように努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開所時は1階のみだった為、全職員が1階の勤務だったが、2階が開所してからは1階から2階に少しずつ職員を配置した。その後、職員の異動はない。また、全職員が1階のスタッフルームにて出勤簿を記入する為、2階の職員は1階の入居者に声をかけるようにしている。また、1階の職員は2階のベランダに洗濯物を干しに行く際、2階の入居者に声をかけるようにしている。</p>	<p>開所から現在まで離職したスタッフは1名のみで、今後も顔馴染みの関係で、入居者が安心して暮らすことができるように努めていきたい。</p>
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は職員の育成に理解があり、研修などには大いに参加するように働きかけている。その為、認知症実践者研修受講者5名、管理者研修受講者3名、リーダー研修受講者1名、事業開設者研修受講者2名と多い。また、東京でのセンター方式の研修も2名が受講した。その他、グループホーム連絡協議会や県主催の研修にも積極的に参加するよう促している。</p>	<p>今後は経験年数の少ない職員に対しても、外部の研修に参加できるようにしていきたい。また、職員のレベルに応じた研修が受講できるよう、配慮に努めたい。また、定期的に社内研修を行うようにしていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会の研修や管理者会議には参加しており、猪苗代町介護支援ネットワーク会議並びに介護保険サービス事業者連絡会議の合同研修会に出席予定である。また、運営者や管理者は開所時に他の事業所等へ挨拶に行った際、「内部研修などがある場合は是非参加させてください。」とお願いがしたが、どこの事業所からも声がかからない。</p>	<p>今後は研修だけが目的ではなく、他の事業所との情報交換や交流も大切だということを職員に伝えていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は管理者や職員の休日はきちんととるように指導している。しかし、はっきりとした休憩時間や場所がない。しかし、それを改善する具体策は今のところない。喫煙者に対しては禁煙ではなく、時間帯と場所を決め、喫煙している。</p>	<p>今後、休憩時間や休憩場所の確保に努めていきたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者と管理者は常に職員個々について情報を共有している。また、注意する点だけでなく、努力している職員に関してはきちんと評価し、良い点や感謝の意を伝えるように努めている。経験年数が3年以上の職員には介護福祉士の受験料、経験5年以上の職員には介護支援専門員の受験料を各3回までは会社で負担している。</p>	<p>職員個々に自己評価をしていただき、提出していただいたが、個人面談まではしていない。職員個々とゆっくりと話す時間を設け、明確な目標を持ってケアができるように働きかけていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の方が調理、洗濯、掃除など家事の得意分野を發揮できるような環境作りに努め、お手伝いいただいている。また、入居者の方に助けていただくこともある為、感謝の気持ちを持つようにしている。幅広い年齢層の職員を配置している為、その時の状況に応じて親子のような関係になったり、孫のような関係になったりしている。団樂の時間は特に大切にしている。</p>	<p>今後も入居者の方は人生の先輩だということを念頭におき、入居者の方から多くのことを学ぶという姿勢で接していきたい。また、感謝の気持ちを持ち続けたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者とご家族の関係が途絶えることのないように常に意識し、本人を支援していく上で必要な時は、ご家族に相談したり、協力をお願いするようにしている。また、ホームに面会にいらした際は一緒にお茶を飲んだり、食事をしていただくように声をかけている。また、誕生会や芋煮会などの行事の際はご家族の参加も促している。		本人とご家族が決して疎遠になることのないように、何かある時は必ずご家族に連絡し、協力の依頼を継続していく。また、疎遠になっている関係の修復にも努めたい。入居者の全家族より「家族会入会承諾書」をいただいた為、今後は家族の会を設立していきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームでの生活の様子や本人との会話の内容などを手紙や面会時に具体的にお伝えするようにしている。また、面会には出来るだけ来ていただけるよう働きかけているが、なかなか面会に来られないご家族もいる。		ホームでの生活の様子や会話などを具体的にお伝えし、入居者とご家族が程良い距離感を保つことができるように支援していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教会に通われていらした入居者と教会に出かけたり、入居者の部落のお祭りに出かけたり、入居者の方の友人を訪ねて施設訪問に行くなど、友人や馴染みの人との関係が途絶えることのないよう支援している。また、ご家族だけでなく、知人や親せきの方にも面会に来ていただけるよう働きかけている。		今後センター方式を活用し、本人にとっての馴染みの人や場所を把握していきたい。また、ご家族だけでなく、知人や親せきの方がいつでも気軽に面会に来られるような声かけを続けていきたい。
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の性格などを考慮した上で、テーブルの席を配慮している。その為、テーブルごとに会話されている。また、入居者が入居者を励ましたり、相談にのったり、できないところを手伝ってくださるなど、入居者同士が支えあう姿が見られます。会話が通じない時などは職員が間に入り、会話ができるように配慮しているが、充分でない時もある。		入居者同士がお互いを思いやり、支え合い、共に暮らすことができるように支援していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関係を必要とする利用者や家族が今のところいない。		共に暮らした入居者のことを忘れることなく、時々思い出したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話の中や入居者同士の会話の中から本人の思いや生活に対する希望、意向など聞かれた場合はケース記録に記録している。会話などは内容を具体的に記録している。また、センター方式を活用し、本人の気持ちが把握できるように努めている。しかし、認知症により言葉で伝えられない入居者に関しては表情から汲み取り把握するようにしているが充分とは言えない。</p>	<p>認知症により言葉で伝えられない入居者に関しては表情から汲み取り把握しているが、決して充分とは言えない。本人はどのように望んでいるのか、本当にそれでいいのか常に検討しながら支援していきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご家族が本人についてあまりよく知らない場合もある。その為、ご家族の同意を得て本人をよく知る方に聞いたり、本人に面会にいらした方の昔話から把握したりしている。また、ホームに入居されてからも分からないことや疑問に思ったことはその都度、ご家族に確認している。</p>	<p>センター方式を活用し、本人の生活歴、馴染みの暮らし、生活環境などを把握し、その方らしい暮らしが提供できるようにしていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>ケース記録や日々チェック表(バイタル、食事、水分、排泄、入浴など)でその方の1日が分かるようにしている。また、必要に応じてはセンター方式を活用し、より詳しい記録で現状を把握するように努めている。職員間の申し送り時に情報を共有し、意見交換をしている。</p>	<p>入居者の身体状況や精神状態を把握し、小さな変化も見逃さないようにしていきたい。</p>
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>面会時にご家族と情報交換の場を設け、小さな気づきや家族の意向などを聞き、入居者本位の介護計画作成に努めているが、本人の身体状況によっては必ずしも反映されているとは言えない。また、必要に応じてはご家族だけでなく、医師や以前の担当ケアマネジャー等との話し合いの場を設け、意見を反映した介護計画作成に努めた。</p>	<p>入居者がその人らしく暮らせるような介護計画作成に努めたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は設定された期間ごとや入院などで本人の状態に変化が生じた際には、介護計画の見直しをしている。しかし、期間内に本人の状態が少し変化した場合などは介護計画の見直しをしていない。</p>	<p>変化が見られない入居者に対しても、月に1回程度は本人やご家族の意向、現状を確認し、現状に即した介護計画作成に努めたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は時間帯、本人の状況、表情、会話の内容などを細かく記入するようにしている。また、その際に記入した職員から見た判断を書くようにしている。その判断などはモニタリングや介護計画作成の際に用いている。毎日、2回の申し送りをし、職員間で情報の共有ができるようにしている。特に変化があった際は業務日誌に記録している。		職員の小さな気づきや新しい発見なども見逃さず、情報を共有した上で介護計画作成に努めたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事や活動に参加している。また、民生委員の視察研修などの受け入れをした。近所の方がボランティアで折り紙を教えてください。近所の保育園児との交流をしている。しかし、警察や消防との協働は今のところない。		今後、無断外出等があり警察に要請する際、すぐに対応できるよう、体制を整えていきたい。また、消防署に協力を依頼し、避難訓練等を行うようにしていきたい。子供との交流を継続していきたい。
41	他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	自己負担が発生する為、特に利用していない。		入居者にとって必要なサービスであれば、今後検討していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターよりご紹介いただいた入居者が入居される際には色々ご協力をいただいた。また、入居後も時々面会に来てくださり、とてもお世話になった。現在も月に1度は入居者の状態を写真入りのお手紙で報告している。何かあった際は、すぐに連携がとれるように努めている。		社内研修として、地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度の研修を行う際、地域包括支援センターに講師を依頼したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的に入居者の主治医は変えない方針で定期受診している。その際、職員は本人の状態を適切に説明するよう努め、1ヶ月のバイタルを表にして自費している。。また、専門科受診の際は必ず家族や主治医と相談をし、主治医と併行して受診している。主治医には他の医療機関に受診した報告を必ずしている。月に1度は本人の写真入りお手紙を持参している。</p>	<p>今後も主治医を変えない方針で定期受診し、本人にとって馴染みの医師として適切なアドバイスがいただけるように努めたい。また、ターミナルケアについても相談し、協力していただけるような体制作りをしていきたい。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>基本的には主治医に相談している。本人の状態が変化した際は、主治医より専門医を紹介していただき、検査受診をすることもある。</p>	<p>定期受診時に本人の状態を報告し、その都度相談にのっていただいたり、アドバイスをいただけるような関係を継続していきたい。</p>
45			
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入居者が入院した際は、職員が交代で毎日お見舞いに行き、本人の状態を確認している。また、看護師の方と情報を共有するよう努めている。入院した際は、寝たきりにならないよう治療を終えた段階で、ご家族、主治医と十分に話し合い早期退院をしている。いつでもホームに戻って来れるように準備をしている。退院時の説明にはご家族の承諾を得て、同席させていただいている。</p>	<p>認知症であることを理解していただき、医療上の身体拘束を最小限にさせていただくように働きかけたい。また、入院による認知症の進行や寝たきりの防止に努めていきたい。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居者の中には、本人が最後までホームで面倒見てほしいと希望されている方もいる。あらためて、終末期に対しての話し合いをしていない為、現在の段階で全家族の意向を把握しきれておらず、曖昧である。</p>	<p>入居当時と現在では入居者の身体状況も変わり、本人や家族の意向も変化するので、定期的に意向を再確認をする必要がある。また、ご家族の思いや意見も様々なので要望に応えることが出来るように、職員間、家族、主治医等と十分な話し合いをしていき、終末期の方針を共有していきたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>入居者の方が重度化した場合や本人が最後までホームで面倒をみてほしいと希望されている入居者に対して、ホームには十分な設備がない為、入居者の状態に応じてどこまで出来るか、まだ漠然としている。</p>	<p>今後、入居者の重度化が予測される為、終末期の意向等を確認する必要がある。また、職員は終末期に向けて話し合いの場を設けたり、研修などの勉強会を行うなどスタッフの意識を統一していきたい。医療機関や以前の担当ケアマネージャーとの連携が速やかにとれるよう早期から話し合いをすることが必要だと考えている。ご家族の協力が不可欠の為、働きかけもしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>まだ開所して1年にも満たない為、今のところ別の居所へ移り住んでいないが、今後ホームから別の居所に移り住んでも、これまでの生活が継続されるよう、センター方式を活用して今後の準備をしている。</p>	<p>今後、別の居所へ移り住まれる場合は、本人が混乱しないように、充分配慮して対応していきたい。また、これまでの生活が継続できるようにセンター方式やケアプランなどの情報提供を行っていきたい。</p>
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>本人が不快に感じるような言葉遣いや声かけはしないように気をつけているが、耳が遠い方に対してはどうしても大きな声での話しかけになることが多い。認知症の為、さりげない声かけでは理解できず、応じられない時もある。また、個人情報の流出には充分注意するよう常に話をしている。</p>	<p>意思の疎通が困難な入居者に対しては、本人に馴染みのある言葉を用い、他の入居者がいない場所で声かけるなどの配慮をしていく。決して本人が不快に感じるような言葉遣いや声かけをしないようにスタッフ会議等で時々振り返りをしていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>認知症により意思の疎通が困難な入居者に対しても、2択、3択などで自己決定するように促し、おやつやTV番組を選んでいただいている。食事のメニューに入居者の意見を取り入れるようにしている。</p>	<p>限られた場面での選択だけでなく、さまざまな場面において自己決定ができるように配慮していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その人らしく生活できるよう、起床、食事、入浴、外出、就寝などその方のペースに応じるよう努めてはいるが、時々職員側の都合で応じている時も見られる。また、入居者の方の状態や生活スタイルに応じて、スタッフの配置や勤務時間の変更をしている。</p>	<p>限られたスタッフ配置でも、その方らしい生活が出来るような支援に努めていきたい。その為に、ボランティアやご家族の協力も得られるように働きかけていきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>本人が美容室に行きたいと望んだ場合は、速やかな対応に努めている。女性の場合は、希望に応じてパーマや染髪もおこなっていただいている。男性の入居者は髪が少しでも伸びると気になる為、切ってほしいとの希望があった場合は職員がすぐに対応できるようにしている。</p>	<p>髪型や服装などの身だしなみだけでなく、女性の入居者には行事や外出の際に化粧をするなどの配慮もしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニューは、広告を見て入居者と一緒に考えたり、一緒に買い物に行って選んでいただいた食材を取り入れ、メニューを変更している。また、嗜好を把握し、好きな物を食べていただくようにしている。本人の状態に応じて、皮むきや盛り付け、配膳、片付けなどを職員と一緒にやっている。</p>	<p>限られた入居者だけでなく、それぞれに役割を持っていただけるよう検討していきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>医師の指示がない場合は特に制限していないが、ご家族と相談の上、飲酒していただいている。飲酒の制限がある入居者に関しては、量を決め、少しの量でも満足できるように工夫している。</p>	<p>飲酒の習慣がない入居者の方でも、お酒が飲みたい気分になることもある為、今後の対応を検討していきたい。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>入居時にオムツやリハビリパンツを使用していた方も今は布パンツにパットを使用している。夜間や外出時など必要な時のみパットを使用している。排泄のチェック表をホーム独自に作成し、排泄パターンで定時声かけをおこなっている。</p>	<p>出来る限り排泄の自立を促し、支援していきたい。また、現在は排泄パターンで定時声かけ、誘導をおこなっているが、今後は定時誘導ではなく本人の尿意のサインによる誘導ができるように職員間で情報を共有し、失禁の軽減に努めたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>曜日、時間帯は一切決まっていない為、毎日入浴できる。入浴の前に声かけし、本人の希望を聞いた上で対応している。また、夜間帯の失禁者には皮膚の清潔保持もある為、午前中の声かけをしているが、本人も入浴を希望される為、特に問題にはなっていない。夏場は毎日温泉に行き、職員も一緒に入浴を楽しんだ。</p>	<p>時々、職員の業務の都合で入浴の声かけをしていることがある為、職員間で話し合い改善に努めたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>特に起床時間や就寝時間の決まりはないが、昼夜逆転しない程度に本人のペースで入眠していただくようにしている。また、夜間はパットを使用していただき安眠を確保している。また、昼食後は入居者の身体状況に応じて、短時間臥床していただくようにしている。</p>	<p>今後も安眠を確保するための工夫をしていきたいと考えている。また、天気の良い日は外に布団を干したり、居室の温度設定に配慮していきたい。長時間椅子に腰掛けている入居者に対しては、引き続き適度な臥床を勧めるようにする。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>入居者の性格や身体状況に応じて役割を持っていただくように努めている(例えば、台拭き、掃除、盛り付け、配膳、洗濯たたみなど)。また、趣味として読書や音楽鑑賞、ドライブ、散歩などを楽しんでいただいている。畑を作りたいとの希望があったが、まだ畑がないなど、支援しきれないこともある。</p>	<p>まずは、早急に畑を作りたい。また、生活歴などを再確認し、他にも本人の性格や力を活かした役割がないか検討し、本人の力を引き出せるような支援をしていきたいと考えている。その他、子供が好きな方に対して子供と交流できる場や外食の好きな方に対して外食する機会を多くしていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	基本的に金銭管理はホーム側でおこなっている。しかし金銭管理が出来る入居者に関しては、家族同意の上、本人が現金(小額)を保持している。また、買い物に行った際、本人が支払いをし、スタッフが確認をしている。		金銭管理については認知症の症状にもより、一概にはできないが、今後買い物をする際には職員見守りにて本人に支払いをしていただく機会を設けたりしていきたい。また、どの程度の金銭感覚があるのかを個別に確認した上で、個々に応じた対応をしていきたいと考えている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	天候の良い日は近所を散歩をしたり、買い物やドライブに出かけたりしている。また、室外に出て日向ぼっこをしたり、おやつを食べたりして気分転換を図っている。本人が「行きたい」という希望には極力応じるように努めているが、職員の状況により対応できないこともある。		今後も外出や室外での活動を取り入れ、気分転換をしたり、喜びを感じていただけるように支援していきたい。また、職員の状況で対応できないということを極力なくす努力をしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	本人より遠方の教会に行きたい、遠方の友人に会いたいとの希望があった際は、ご家族と相談し、ご家族と一緒に行っていただいた。また、お祭りに出かける際は、事前にご家族に連絡し、現地で会えるようにしている。		今後も本人の希望に応じ、外出できるよう支援していきたい。また、外出だけではなく、旅行などの外泊の支援もできるように検討していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	本人が電話したいと申し出た際や手紙を書きたいとの希望があった際は、特に制限せずに応じている。また、本人と一緒に便箋を買いに行ったり、郵便局に手紙を出しに行ったりしている。また、年賀状も希望される方のみ書いていただいた。		本人が書いた手紙の返事が、いっぺんに届くこともあり、本人が自室にこもって、また返事の手紙を書くという姿が見られる為、適度に手紙を書くことができるようにも支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	面会の時間は特に設けておらず、ご家族の方には「いつでもいらして下さい」と話している。ご家族や親戚、ご友人がいらした際はゆっくりと過ごしていただけるようおやつや食事なども一緒に食べていただいている。お帰りの際は、本人と職員が玄関先までお見送りしている。		常に訪問しやすい環境作りを心がけ、気持ちよく過ごせるよう配慮に努めたい。また、スタッフはご家族、親戚だけでなく、友人の方の顔を覚え、町内などでお会いした際は訪問に来ていただけるように声かけしていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームには身体拘束マニュアルがあり、いつでも確認できるようになっている。また、管理者やユニットリーダーは身体拘束防止についての研修に参加している。現在は、ホームに入居される際に、病院からのアドバースもあり、家族の承諾を得て起床センサーを使用している方が1名いらっしゃる。		身体拘束防止の研修会などに職員も参加し、常に問題意識を持ち、身体拘束をすることのないように全職員で取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は玄関の鍵を一切かけないようにしている。また、本人が外出する際、居室の鍵をかけて欲しいと申し出があった場合は、鍵をかけたりすることもある。夜間居室に自ら鍵をかけ就寝する入居者に対しては、巡視時に鍵を開け対応しているがそのことを本人にもきちんと説明し、納得していただいている。</p>	<p>鍵をかけなくても大丈夫だという安心感で、気が緩むことのないよう、しっかりと見守りを行っていきたい。</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>居室に入室する際は必ず、ロックや声かけをしている。また、洗濯物を干したりする際に本人が居室にいない時は、本人に入室の用件を伝えるようにしている。居室にて過ごしている際は、時々訪室し声かけをするなど、本人の様子を確認している。</p>	<p>自ら居室に鍵をかける入居者に対しては居室での転倒等がないように十分注意していきたい。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>各居室に関しては、本人の状態にもよるが基本的には物品の持込みを制限していない。また、食堂やリビングなどの共有スペースに関しては、注意が必要な物品は何か、危険要因は何か、どのような管理方法をとっていくかを必要に応じて検討している。</p>	<p>今後も注意が必要な物品などを一律に取り去ってしまうのではなく、どのようにすれば危険要因にならないかを職員間で話し合い、意識を高めていけるようにする。また、今までは大丈夫だったから、今後も大丈夫という安心感を持たないようにする。</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故が発生した場合は、速やかに事故報告を提出するように指導している。また、事故報告書を全職員が確認している。再度同じような事故が起きないように努めているが、同じような事故が続けて起きる場合もある。</p>	<p>今後は事故が発生する時間帯や原因、スタッフの配置など色々な角度から分析し、再発防止に努めたい。また、事故防止についてスタッフ会議等で話し合っていきたい。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>急変時対応マニュアルがホームあるが、掲示までしていない。また、応急手当や初期対応の訓練をおこなっていない。</p>	<p>緊急時対応マニュアルを簡潔にし、目に入るところに掲示する。避難訓練時などに合わせ、急変時の対応なども再確認していきたい。また、普通救命講習会を全職員が受講するようにしたい。更新も含めて定期的に参加していきたい。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難訓練を4月に予定している。また、地区の親睦会など近所の方が集まった際には、地域の方の協力が得られるように働きかけている。</p>	<p>万が一の時に職員全員が焦らず、適切に行動することができるように訓練を重ねていきたい。その他、地区の消防団等に協力要請する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>本人の身体状況で起こりうるリスクについては、ご家族に説明を行い、理解していただくように努めている。また、対応や取り組みは家族と相談しながら行っている。家族とスタッフが常日頃の信頼関係を築くことも大切だと実感している。</p>	<p>高齢者の生活にはリスクがあることを理解していただくとともに、日常の様子を見ていただいたり、説明したりして本人の状態を知っていただく。また、本人の活動範囲を制限することなく生活できるように支援していきたい。今後も、家族との信頼関係を築いていきたい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日定時にバイタル測定を行い、食事摂取量や排泄回数なども記録している。また、いつもと違うと感じた時は、本人に体調を聞いたり様子観察を行い記録をし、管理者に連絡する。必要に応じては速やかに受診している。記録や申し送りにて全職員が情報を共有し対応している。</p>	<p>今後も定時のバイタル測定を行い、本人の健康管理に努めたい。また、本人の小さな変化やサインを見逃さないようにしていきたい。また、どんな小さなことでも自己判断せずに、管理者に相談したり、受診したりする。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員全員が使用している薬の目的や副作用、用法や用量についての理解をしているとはいえない。しかし、分からない場合は薬剤師に確認している。また、服薬管理、服薬の支援は出来ている。</p>	<p>入居者が服薬している薬の名前と目的、副作用程度は把握するように努めたい。また、調剤薬局では分かりやすく薬の説明が書いてあるものをくださるので、今後活用していきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘になると不穏状態になる方もいる。病院から下剤をいただいている方もいるが、水分を多めに摂っていただくような声かけをしている。また、食物繊維の多い食物を摂取したり、オリゴ糖を使用したりしている。</p>	<p>食物繊維の多い食材を取り入れたメニューにするなど、日頃から便秘対策を行なっていきたい。また、極力食物などで自然排便を促したい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、声かけし本人に行なっていただくようにしている。できない方にはスタッフが介助して行っている。拒否のある方に関しては、時間をずらしたり、状態を見て行っている。口腔ケアも毎食ごとにチェックしている。</p>	<p>自立で口腔ケアをしている入居者に対しては、声かけのみで、確認まではしていない為、今後確認の方法を検討していきたい。また、自立にて口腔ケアをしている入居者に対して、本人に失礼のないように配慮し確認する。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分補給は本人の嗜好も考慮し、声かけ支援している。食事やおやつの時以外でもこまめに摂取していただくように心がけている。また、食事はカロリー計算まではしていないが量や栄養バランス、入居者の嗜好を考慮している。摂取量、摂取状態を記録し、情報を共有している。</p>	<p>栄養バランスも大切だが、高齢者は栄養摂取が大切だと考える。バランスのとれた食事を提供しても1品しか食べなければ意味がない為、嗜好を考慮した食事の提供をしていきたい。また、ゆっくり食事を食べる入居者の方に対しては、急かさず、食べ終わるまで待つようにしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがある。外出した際は、うがい手洗いをさせていただくようにしている。来所された方にも入口にて手指の消毒やマスクの着用をさせていただけるように設置している。その他、インフルエンザ予防接種を受けている。		入浴は一人ずつ行い、その都度お湯の入れ替えをしている。また、洗濯物も一人ずつ洗濯している。失禁した衣類については消毒してから洗濯している。現時点で感染症になっていない為、今後も継続して行なっていきたいと考えている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理の際はきちんと手洗いをし、必要に応じてマスクをするようにしている。食材は賞味期限や品質保持期限を確認し、新鮮なうちに調理するようにしている。また、布巾や台布巾は夜勤者が夜中に消毒し、使用している。その他、包丁、まな板などの調理器具は次亜塩素酸で消毒している。		今後も食中毒には十分注意し、おいしく、楽しい食事を提供していきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすく家庭的な雰囲気を出すように努めているが、もともとペンションの為、なかなか困難である。また、玄関先で休むことができるようにベンチを置いてある。その他、花の寄せ植えを置いたり、庭木を植えたりしているが、手入れが行き届いていない。		玄関先のベンチにはよく入居者が腰掛け会話を楽しんでいるが、近所の方も腰掛けて話ができるようにしていきたい。季節を感じる庭木や花を増やして、きちんと手入れもできるようにしていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を出すように努め、玄関や廊下、居間などの壁には絵や花を飾っている。しかし居間があまり広くはない為、あまり飾り過ぎるとゴチャゴチャしてしまう。また、季節感を感じるような飾りが少ない。		居間はあまり広くはないが、入居者の方にとっては家庭に近く落ち着ける空間になっている。また、居間などの共有空間にも入居者の好みを反映させたい。その他、入居者の作品なども飾りたい。季節感を感じるような飾り付けをしていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルは入居者それぞれ所定の席があり、落ち着いて過ごされる。また、共有空間のソファは入居者の方の生活スタイルに合わせて配置換えをしている。共有スペースは狭く、独りになれる空間がない。		共有空間では入居者それぞれの過ごし方がある。また、共有空間で進んで独りになることはなく、他の入居者や職員のいるところに集まる為、あえて独りになれる空間を作ることは考えていない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の説明時には、必ず本人の馴染みの物を多く持参していただくようお願いしている。独居だった方は本人の好みに応じた居室になっている。また、テレビや仏壇なども持ってきていただいている。しかし、中には馴染みの物がほとんどなく殺風景な部屋の方もいる。</p>	<p>居室は本人が落ち着いて過ごせる空間にしたいと考えている。ご家族にも継続して声かけしているが、なかなか実現が困難である。本人の馴染みの物ではなくても、本人の好みに合わせた空間作りができるよう検討していきたい。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>温度計と湿度計をこまめにみて温度調整をするように努めている。山間部の為、冬場は室温と外気温の差が大きく、入居者が寒がるので、こまめに換気ができない。</p>	<p>健康のためにも朝の空気を取り入れるようにしている。また、居室で過ごす時間の多い入居者に対しては、居室にいない時間に換気をするようにしていきたい。においが気にならないようにこまめの換気を心掛けたい。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>共有空間があまり広くない為、手を伸ばすと手すりに手が届く。移動の距離が短い為、歩行困難な入居者でも見守り等で移動が可能である。また、家具は本人が自立した生活を送れるように検討した上で配置している。</p>	<p>本人の身体状況が変化した際は、それに応じて工夫していきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>本人が出来ることは、出来るだけ声かけをし本人にお願いしている。また、本人の得意なことや苦手なことを把握し、手伝いなどもしていただいている(例えば、調理、盛り付け、配膳、片付け、掃除、草むしりなど)。本人に役割を持っていただくように心がけている。</p>	<p>今後も本人の出来ることは、出来る限り見守り、自立した生活を継続できるように支援していきたい。</p>
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関先にあるベンチに腰掛け、外の景色を眺めながらお茶を飲んだり日光浴をしたりしている。また、草むしりしたりし、適度に体を動かしている。</p>	<p>建物の周りが少し斜面になっている為、ふらつき転倒する可能性がある。今後改善するのは困難だが、事故のないように十分注意して外での活動を楽しめるよう支援していきたい。また、敷地が広いので、有効活用できるように検討していきたい。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の <del>2/3</del> くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	その他( )
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他( )
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の <del>2/3</del> くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の <del>2/3</del> くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の <del>2/3</del> くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の <del>2/3</del> くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の <del>2/3</del> くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の <del>2/3</del> くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	その他( )
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 た <del>まに</del> ほとんどない	その他( )

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている <del>あまり増えていない</del> 全くいない	その他( )
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が <del>利用者の2/3</del> くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が <del>家族等の2/3</del> くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	その他( )

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは猪苗代の中ノ沢温泉街の近くにあり、山間部の為、たくさんの緑に囲まれ、のどかなところです。1階と2階の2ユニットで入居者は女性14名、男性4名の計18名です。また、ご夫婦で入居されている方が1組いらっしゃいます。

ホームの理念は「いつまでもその人らしく なじみの地域で わが家のように温かく しあわせに笑顔あふれる ろうごを共にくらす」です。全職員が一丸となり作ったものです。職員は自分たちで作ったということもあり、常に意識し理念に沿ったケアを目指しています。その為、「いつまでもその人らしく」ということでセンター方式を活用し、本人を知るようにしています。また、ホームから別の居所へ移り住む際には、センター方式を引き継げるようにしたいと考えています。「なじみの地域で」ということで地域の行事や他のサービス事業所のお祭りなどに積極的に参加するようにしたり、知人や友人との関係も途絶えることのないように努めています。「わが家のように」ということで家族のようなきめ細やかなケア、安心できる関係作りを心がけています。「しあわせに笑顔あふれる」ということで入居者の笑顔がたくさん見ることができるよう、また職員も笑顔を絶やさないようにしています。「ろうごを共にくらす」ということで支援する側、支援される側という関係ではなく、お互いに支え合いながら喜怒哀楽を共に感じることができるようを目指しています。

まだ、開所まもなく未熟なところもたくさんありますが、理念に沿ったケアを実現する為に努力しています。

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目

### (評価項目の構成)

#### .理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### .安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### .サービスの成果に関する項目

#### 【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

項目番号23 初期に築く本人との信頼関係

項目番号24 初期に築く家族との信頼関係

項目番号25 初期対応の見極めと支援

項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援

項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援

項目番号60 お金の所持や使うことの支援

項目番号61 日常的な外出支援

項目番号62 普段行けない場所への外出支援

項目番号63 電話や手紙の支援

項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

#### 【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム 猪苗代

(ユニット名) ユニット 2

記入者(管理者)  
氏名 佐藤 鈴子

評価完了日 平成20年5月29日

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人の理念として「人間としての尊厳を守り、人間らしい心豊かな暮らしを提供する」がある。また、ホームの理念については11月のスタッフ会議の際、理念とは何か、何故重要かを説明し、どのようなホームにしたいかを話し合った上で、BS法を用いて全職員で意見を出し合い、全職員が一丸となって理念を作りあげた。</p>	<p>ホームの理念を常に意識したケアができるように半年に1度は理念の振り返りをし、方向性を確認しながら、ケアの質向上に努めていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>新入社員の研修時には法人の理念を説明し、理念とは何か、どのような方針でケアをしていくかを説明している。法人の理念、ホームの理念を玄関の入り口に掲示し、出勤時に意識できるようにしている。また、ホームの理念はリビングにも掲示し、毎日の申し送りの際に職員で唱和している。理念をカードにし、職員全員が携帯している。</p>	<p>ケアに迷いが生じた時、理念を元に検討するように努めたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>法人の理念はパンフレットに掲載し、必ず見学者などの来訪者には説明している。また、重要事項説明書にも記載されている為、入居契約時にご家族に再度説明している。その他、玄関の入り口やリビングに掲示するなど、目にふれる機会を多くしている。</p>	<p>ご家族や見学者だけでなく、地域の方にも法人の理念やホームの理念を知っていただき、理解していただけるよう今後検討していきたい。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩の際は、近所の方に明るく挨拶をし、時には立ち話をしたり、近所のおまんじゅう屋さんでお饅頭やお茶をいただいたりしている。また、近所の方がボランティアで月に一度折り紙を教えるに来所してくださる。地域の方との交流を深めることができるように努めている。</p>	<p>近所の方にお茶飲みに来ていただけるよう声かけしても、なかなか立ち寄っていただけない為、今後どのようにすればもっと気軽に立ち寄っていただけるかを検討していきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会に入会し、親睦会に参加したり、ゴミ拾いや草むしり、側溝掃除にも入居者と一緒に参加している。地域のお祭り(花嫁行列、水神様のお祭りなど)に声をかけていただき参加した。また、町の敬老会に参加したり、他の事業所の盆踊りにも参加した。近所の保育園に訪問したり、保育園児が節分の豆まきに来所していただくなど交流に努めている。</p>	<p>今後も地域の行事や活動には積極的に参加し、地域の一人として馴染めるように努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	<p>管理者やユニットリーダーは入居相談以外にも地域 の方の相談にのったり、民生委員のグループホーム見 学及び研修の受け入れをしているが、地域貢献まで には至らない。</p>	<p>地域の方々に認知症を理解していただけるように、 認知症ケアサポーターキャラバンメイトの育成に協力 する予定である。また、管理者と計画作成担当者は認 知症介護研究・研修東京センターで学んできたセン ター方式を地域に推進していきたいと考えている。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>今回、開所して初めての自己評価及び外部評価の 為、評価の意義や目的を職員に説明した。また、職員 全員が自己評価の項目に目を通し、全員で自己評価 に取り組んだ。</p>	<p>今回の外部評価後、評価を受け止め、改善すべき点 を全職員で共有した上で改善に努めたい。また、自己 評価や外部評価の時に限らず、常に振り返るよう努め たい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の準備は進めていたが、開催まで には至っていない。</p>	<p>ようやくホームが落ち着いてきた為、早急に運営推進 会議を開催できるよう努めたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる</p>	<p>開所前の新入社員研修には、猪苗代町保健福祉課 の担当者を講師として招き、「猪苗代町における介護 保険の現況及びグループホームに望むこと」について お話いただいた。また、常日頃、些細なことでも確認し たり、相談している。近日、猪苗代町介護支援ネット ワーク会議並びに介護保険サービス事業者連絡会議 の合同研修会に出席予定である。</p>	<p>今後も猪苗代町保健福祉課の担当者と連携をとり、 認知症ケアサポーターキャラバンメイト150名の育成に 協力したいと考えている。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者やユニットリーダーは地域福祉権利擁護事業 や成年後見人制度について学んでいるが、制度に関 しての理解がまだ不十分な為、支援できるまでに至っ ていない。また、職員に対して学ぶ機会を与えていな い。</p>	<p>今後、地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度の 研修や講演会がある場合は職員も参加するようにして いきたい。また、入居者の方が必要になった際に支援 できるような体制を整えたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者やユニットリーダーは高齢者虐待防止関連法 の研修などに参加しているが、職員は参加していな い。しかし、ホームに虐待防止のマニュアルがあり、暴 力や暴言だけが虐待ではないことを話している。どん な些細なことでも虐待に繋がらないかを常に意識して 指導にあたり、防止に努めている。</p>	<p>ホームでは決してあってはいけないことなので、スタッ フ会議等で虐待について話し合ったり、職員に学ぶ機 会を作りたい。また、どんな些細なことも見逃さず、常に ケアに対しての自己反省を促し、啓蒙していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>今後もホームの見学をしていただき、ホームの方針等にご理解、ご納得いただいた上で入居していただくように努めたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>入居者の方が限られた職員だけではなく、全職員に意見や不満、苦情などを話せる関係作りに努めたい。また、性格的に意見や不満、苦情が言えない入居者に関しては、今後どのように声を聞いていか全職員で検討していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>現在、手紙を書いている職員が限られている為、今後は全職員が手紙を書くようにしていきたい。また、定期的に写真入りの職員紹介などの同封も検討していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>よりよいホームづくりの為に、意見や不満、苦情などを教えていただけるようにするには、どのようにしたらよいか今後検討していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>今後、職員の意見や提案をケアプランなどにも反映させていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>現在、入居者の生活状況に合わせて、勤務時間を設定しているが、今後入居者の生活状況が変化した場合にも迅速に勤務時間の変更ができるように努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開所時は1階のみだった為、全職員が1階の勤務だったが、2階が開所してからは1階から2階に少しずつ職員を配置した。その後、職員の異動はない。また、全職員が1階のスタッフルームにて出勤簿を記入する為、2階の職員は1階の入居者に声をかけるようにしている。また、1階の職員は2階のベランダに洗濯物を干しに行く際、2階の入居者に声をかけるようにしている。</p>		<p>開所から現在まで離職したスタッフは1名のみで、今後も顔馴染みの関係を保ち、入居者が安心して暮らすことができるように努めていきたい。</p>
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は職員の育成に理解があり、研修などには大いに参加するよう働きかけている。その為、認知症実践者研修受講者5名、管理者研修受講者3名、リーダー研修受講者1名、事業開設者研修受講者2名と多い。また、東京でのセンター方式の研修も2名が受講した。その他、グループホーム連絡協議会や県主催の研修にも積極的に参加するよう促し、スキルアップを目指している。</p>		<p>今後は経験年数の少ない職員に対しても、外部の研修に参加できるようにしていきたい。また、職員のレベルに応じた研修が受講できるよう、配慮に努めたい。また、内部研修も充実させていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会の研修や管理者会議には参加しており、猪苗代町介護支援ネットワーク会議並びに介護保険サービス事業者連絡会議の合同研修会に出席予定である。また、運営者や管理者が開所時に他の事業所等へ挨拶に行った際、「内部研修などがある場合は是非参加させてください。」とお願いしたが、どこの事業所からも声がかからない。</p>		<p>今後は研修だけが目的ではなく、他の事業所との情報交換や交流も大切だということを職員に伝えていきたい。また、地域の他サービス事業所への訪問を行い、職員同士の交流が持てるように働きかけていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は管理者や職員の休日はきちんととるように指導している。しかし、はっきりとした休憩時間や場所がない。しかし、それを改善する具体策は今のところない。喫煙者に対しては禁煙ではなく、時間帯と場所を決め、喫煙している。また、職員から相談を受けたことに対し、他の職員と共に考え、速やかに対応している。</p>		<p>今後、休憩時間や休憩場所の確保に努めていきたい。また、仕事に対してやりがいを感じるような職場の環境づくりに努めたい。職員の食事会や旅行などの企画も行っていきたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者と管理者は常に職員個々について情報を共有している。また、注意する点だけでなく、努力している職員に関してはきちんと評価し、良い点や感謝の意を伝えるように努めている。経験年数が3年以上の職員には介護福祉士の受験料、経験5年以上の職員には介護支援専門員の受験料を各3回までは会社で負担している。</p>		<p>職員個々に自己評価をしていただき、提出していただいたが、個人面談まではしていない。職員個々とゆっくりと話す時間を設け、明確な目標を持ってケアができるように働きかけていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にながら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の方が調理、洗濯、掃除など家事の得意分野を發揮できるような環境作りに努め、お手伝いいただいている。また、入居者の方に助けていただくこともある為、感謝の気持ちを持つようにしている。幅広い年齢層の職員を配置している為、その時の状況に応じて親子のような関係になったり、孫のような関係になったりしている。団樂の時間は特に大切にするようにし、喜怒哀楽を共有するよう努めている。</p>	<p>役割を持った生活が継続できるように努め支援していきたい。今後も入居者の方は人生の先輩だということを念頭におき、入居者の方から多くのことを学ぶという姿勢で接していきたい。また、感謝の気持ちを持ち続けたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を支援していく上で必要な時は相談したり、協力を依頼しながら支えていく関係を築くように努めている。また、ホームに面会にいらした際は一緒にお茶を飲んだり、食事をしていただくように声をかけている。誕生会や芋煮会などの行事の際はご家族の参加も促している。		本人とご家族が決して疎遠になることのないように、何かある時は必ずご家族に連絡し、協力の依頼を継続していく。入居者の全家族より「家族会入会承諾書」をいただいた為、今後は家族の会を設立していきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人がご家族に伝えられない感謝の気持ちを代弁したり、家族の思いを本人に伝えたりと良い関係が保たれるように努めている。月に1度はホームでの生活の様子や本人との会話の内容などを手紙でお伝えするようにしている。また、面会には出来るだけ来ていただけるよう働きかけているが、なかなか面会に来られないご家族もいる。		ホームでの生活の様子や会話などを具体的にお伝えし、入居者とご家族が程良い距離感を保つことができるように支援していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の承諾を得て、入居者の自宅や入居者宅の畑に行っている。また、入居者の部落のお祭りに出かけたり、入居者の行きつけのお店や美容室に行くなど、馴染みの場所や人との関係が途絶えることのないよう支援している。また、ご家族だけでなく、知人や親せきの方にも面会に来ていただけるよう働きかけている。		今後センター方式を活用し、本人にとっての馴染みの場所や人を把握していきたい。本人がこれまでに行っていた場所などは今後も継続して行けるよう支援していきたい。また、ご家族だけでなく、知人や親せきの方がいつでも気軽に面会に来られるような声かけを続けていきたい。
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の性格などを考慮した上で、テーブルの席を配慮している。時々入居者同士が喧嘩をし、職員が仲裁に入ることもあるが、入居者が入居者を励ましたり、相談にのったり、できないところを手伝ってくださるなど、入居者同士が支え合う姿も見られる。会話が通じない時などは職員が間に入り、会話ができるように配慮しているが、充分でない時もある。		ゲームやテレビなどを通じて関わり合いながら、仲良く過ごせるように努めている。入居者同士がお互いを思いやり、支え合い、共に暮らすことができるように支援していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用(契約)が終了しても、法要の際にはご家族に連絡した上で自宅訪問をした。ご家族やご親戚の方々には、時々遊びにいらしていただくようお願いしている。次の法要の際も連絡をいただけるようお願いしている。また、買い物などの際にご家族にお会いした際には、挨拶だけでなく立ち話などもしている。		共に暮らした入居者のことを忘れることなく、時々思い出したい。また、ホームの行事の際は、ご家族に連絡し遊びに来ていただくなど関係が継続するように努めていきたい。本人の命日などにはご家族に連絡をして訪問したりしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話の中や入居者同士の会話の中から本人の思いや生活に対する希望、意向など聞かれた場合はケース記録に記録している。会話などは内容を具体的に記録している。また、センター方式を活用し、本人の意向が把握できるように努めている。モニタリングの際にも本人の希望や意向を取り入れるように努めている。</p>	<p>本人はどのように望んでいるのか、本当にそれでいいのか常に検討しながら支援していきたい。今後も引き続きセンター方式を活用していただきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご家族が本人についてあまりよく知らない場合もある為、ご家族の同意を得て本人をよく知る方に聞いたり、本人に面会にいらした方の昔話から把握したりしている。また、ホームに入居されてからも分からないことや疑問に思ったことはその都度、本人やご家族に確認している。</p>	<p>引き続きセンター方式を活用し、本人の生活歴、馴染みの暮らし、生活環境などを把握し、その方らしい暮らしが提供できるようにしていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>ケース記録や日々チェック表(バイタル、食事、水分、排泄、入浴など)でその方の1日が分かるようにしている。また、必要に応じてはセンター方式を活用し、より詳しい記録で現状を把握するように努めている。職員間の申し送り時に情報を共有し、意見交換をしている。</p>	<p>入居者の身体状況や精神状態を把握し、小さな変化も見逃さないようにしていきたい。</p>
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>面会時にご家族と情報交換の場を設け、小さな気づきや家族の意向などを聞き、入居者本位の介護計画作成に努めている。また、必要に応じてはご家族だけでなく、医師や関係者等との話し合いの場を設け、意見を反映した介護計画作成に努めた。</p>	<p>入居者がその人らしく、より良く暮らせるような介護計画作成に努めたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は設定された期間ごとや入院などで本人の状態に変化が生じた際には、介護計画の見直しをしている。しかし、期間内に本人の状態が少し変化した場合などは介護計画の見直しをしていない。</p>	<p>変化が見られない入居者に対しても、月に1回程度は本人やご家族の意向、現状を確認し、現状に即した介護計画作成に努めたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は時間帯、本人の状況、表情、会話の内容などを細かく記入するようにしている。また、その際に記入した職員から見た判断を書くようにしている。その判断などはモニタリングや介護計画作成の際に用いている。毎日、2回の申し送りをし、職員間で情報の共有ができるようにしている。特に変化があった際は業務日誌に記録している。		今後も職員の小さな気付きや新しい発見なども見逃さず、情報を共有した上で介護計画作成に努めていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事や活動に参加している。また、民生委員の視察研修などの受け入れをした。近所の方がボランティアで折り紙を教えてください。近所の保育園児との交流をしている。しかし、警察や消防との協働は今のところない。		今後、無断外出等があった場合には、すぐ警察等に連絡し、対応できるよう体制を整えていきたい。また、消防署に協力を依頼し、避難訓練等を行うようにしていきたい。子供との交流を継続していきたい。
41	他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望があり、訪問リハビリをお願いするようにご家族や医師と話し合ったが、自己負担大きい為、なかなか利用にまで至らない。		入居者にとって必要なサービスであれば、今後検討していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターよりご紹介いただいた入居者が入居される際には色々ご協力をいただいた。また、入居後も時々面会に来てくださり、とてもお世話になった。現在月に1度は入居者の状態を写真入りのお手紙で報告している。何かあった際は、すぐに連携がとれるように努めている。		社内研修として、地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度の研修を行う際、地域包括支援センターに講師を依頼したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		<p>今後も主治医を変えない方針で定期受診し、本人にとって馴染みの医師として適切なアドバイスがいただけるように努めたい。また、ターミナルケアについても相談し、協力していただけるような体制作りをしていきたい。大きな行事だけでなく、定期的に医師が訪問して下さるよう検討していきたい。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>定期受診時に本人の状態を報告し、その都度相談にのっていただいたり、アドバイスをいただけるような関係を継続していきたい。</p>
45			
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>認知症であることを理解していただき、医療上の身体拘束を最小限にさせていただくように働きかけたい。また、入院による認知症の進行や寝たきりの防止に努めていきたい。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>入居当時と現在では入居者の身体状況も変わり、本人や家族の意向も変化するので、定期的に意向を再確認をする必要がある。また、ご家族の思いや意見も様々なので要望に応えることが出来るように、職員間、家族、主治医等と充分な話し合いをしていき、終末期の方針を共有していきたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>今後、入居者の重度化が予測される為、終末期の意向等を確認していく必要がある。また、職員は終末期に向けて話し合いの場を設けたり、研修などの勉強会を行うなどスタッフの意識を統一していきたい。医療機関や以前の担当ケアマネジャーとの連携が速やかにとれるよう早期から話し合いをすることが必要だと考えている。ご家族の協力が不可欠の為、働きかけもしていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>まだ開所して1年にも満たない為、今のところ別の居所へ移り住んでいないが、今後ホームから別の居所に移り住んでも、これまでの生活が継続されるよう、センター方式を活用して今後の準備をしている。</p>	<p>今後、別の居所へ移り住まれる場合は、本人が混乱しないように、充分配慮して対応していきたい。また、これまでの生活が継続できるようにセンター方式やケアプランなどの情報提供を行っていきたい。</p>
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>本人が不快に感じるような言葉遣いや声かけはしないように気をつけているが、耳が遠い方に対してはどうしても大きな声での話しかけになることが多い。認知症の為、さりげない声かけでは理解できず、応じられない時もある。また、個人情報の流出には充分注意するよう常に職員に話をしている。</p>	<p>意思の疎通が困難な入居者に対しては、本人に馴染みのある言葉を用い、他の入居者がいない場所で声かけるなどの配慮をしていく。決して本人が不快に感じるような言葉遣いや声かけをしないようにスタッフ会議等で時々振り返りをしていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の希望を尋ねるように心がけ、本人が決定できるように働きかけています。本人の理解力にあわせた説明を行い、本人が納得するまで何度でも説明うようにしています。先日は選挙権のある入居者全員が、選挙に行き投票してきた。</p>	<p>今後もさまざまな場面において自己決定ができるように配慮していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その人らしく生活できるよう、起床、食事、入浴、外出、就寝などその方のペースに応じるよう努めてはいるが、時々職員側の都合で対応している場面も見られる。また、入居者の方の状態や生活スタイルに応じて、職員の配置や勤務時間の変更をしている。</p>	<p>限られたスタッフ配置でも、その方らしい生活が出来るような支援に努めていきたい。その為に、ボランティアやご家族の協力も得られるように働きかけていきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>本人の意向を尊重し、馴染みの店や近隣の店を利用している。本人が美容室に行きたいと望んだ場合も、行きつけの美容室に連絡し、速やかに対応している。女性の場合は、希望に応じてパーマや染髪もおこなっていただいている。行きつけのお店に行くことでサービスして下さる理容室もある。希望によってホーム内に出張していただき対応することもある。</p>	<p>髪型や服装などの身だしなみだけでなく、女性の入居者には行事や外出の際に化粧をするなどの配慮もしていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニューは、広告を見て入居者と一緒に考えたり、一緒に買い物に行って選んでいただいた食材を取り入れている。また、嗜好を把握し、好きな物を食べていただくようにしている。時には郷土料理や旬の食材を取り入れるようにしている。本人の状態に応じて、皮むきや盛り付け、配膳、片付けなどを入居者と一緒に行っている。食事の際は楽しい話題でゆっくり過ごせるよう心がけている。</p>	<p>限られた入居者だけでなく、それぞれに役割を持っていただけるよう検討していきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつに関しては入居者の意見を取り入れている。飲み物についても本人の飲みたい物を飲んでいただけるように配慮している。嗜好について医師の指示がない場合は特に制限していないが、ご家族と相談の上、飲酒していただいている。飲酒の制限がある入居者に関しては、医師と相談し量を決め、少しの量でも満足できるように工夫している。</p>	<p>飲酒の習慣がない入居者の方でも、お酒が飲みたい気分になることもある為、今後の対応を検討していきたい。</p>
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表をつけ、個々の排泄パターンを把握し、声かけ誘導にて、入居時にオムツやリハビリパンツを使用していた方も今は布パンツのみ使用している。夜間や外出時など必要な時のみパットを使用している。</p>	<p>現在は排泄パターンで定時声かけ、見守り、誘導をおこなっている。今後職員間で情報を共有し、出来る限り排泄の自立を促し、支援していきたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>曜日、時間帯は一切決まっていない為、毎日入浴できる。入浴の前に声かけし、本人の気分や希望を考慮した上で対応している。しかし、時間帯によっては職員の都合やその日の予定などで希望通りに応じることができない時もある。夏場は毎日温泉に行き、職員も一緒に入浴を楽しんだ。</p>	<p>時々、職員の業務の都合で入浴の声かけをしていることがある為、職員間で話し合い改善に努めたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>特に起床時間や就寝時間の決まりはないが、昼夜逆転しない程度に本人のペースで入眠していただくようにしている。朝食の時なども一度は声かけするが、何度も声かけせず、本人が起きて来るまで見守るようにしている。日中はできるだけ活動していただき、メリハリがつくように支援している。体調によっては居室で休息していただくこともある。</p>	<p>今後も安眠を確保するための工夫をしていきたいと考えている。また、天気の良い日は外に布団を干したり、居室の温度設定に配慮していきたい。自立している入居者がほとんどの為、ある程度は本人のペースにまかせて見守り中心に支援したい。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>入居者の性格や身体状況に応じて、それぞれ役割を持っていただくように努めている(例えば、台拭き、掃除、盛り付け、配膳、洗濯たみなど)。また、趣味として読書や音楽鑑賞、ドライブ、散歩などを楽しんでいただいている。畑を作りたいとの希望があったが、まだ畑がないなど、支援しきれないこともある。</p>	<p>まずは、早急に畑を作りたい。また、生活歴などを再確認し、他にも本人の性格や力を活かした役割がないか検討し、本人の力を引き出せるような支援をしていきたいと考えている。その他、子供が好きな方に対して子供と交流できる場や外食の好きな方に対して外食する機会を多くしていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	基本的に金銭管理はホーム側でおこなっている。しかし金銭管理が出来る入居者に関しては、家族同意の上、本人が現金(小額)を保持している。また、買い物、外出、外泊時の際、希望される入居者本人に現金を手渡している。ホームに帰宅後、本人よりレシートと現金を預かり、スタッフが確認をしている。		金銭管理については認知症の症状にもより、一概にはできないが、今後買い物をする際、本人に支払いをしていただく機会を多く設けていきたい。また、どの程度の金銭感覚があるのかを個別に確認した上で、個々に応じた対応をしていきたいと考えている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	天候の良い日は近所を散歩をしたり、買い物やドライブ、温泉に出かけたりしている。また、室外に出て日向ぼっこをしたり、おやつを食べたりして気分転換を図っている。本人が「行きたい」という希望には極力応じるように努めているが、職員の状況により対応できないこともある。		今後も外出や室外での活動を取り入れ、気分転換をしたり、喜びを感じていただけるように支援していきたい。また、職員の状況で対応できないということを極力なくす努力をしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	外食、オーケストラ鑑賞、演劇鑑賞、観光、ハイキング、教会クリスマスなど行けるところには、行事として取り入れ外出の機会を設けている。		今後も本人の希望に応じた外出ができるよう支援していきたい。また、外出だけでなく、旅行などの外泊の支援もできるように検討していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	本人が電話したいと申し出た際や手紙を書きたいとの希望があった際は、特に制限せずに応じている。中には、本人やご家族の希望があり、居室にらくらくホンを置いている方もいる。ひ孫さんが誕生した連絡をもらい、お孫さん宛てにお祝いのお手紙を書いた入居者の方もいる。年賀状も希望される方のみではあるが書いていただいた。		電話をかけることは多いが、手紙を書くという姿はあまり見られない。今後は、手紙を書く機会を増やせるように支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	面会の時間は特に設けておらず、ご家族の方には「いつでもいらして下さい」と話している。ご家族や親戚、ご友人がいらした際はゆっくりと過ごしていただけるようおやつや食事なども一緒に食べていただいている。お帰りの際は、本人と職員が玄関先までお見送りしている。中には本人の居室に宿泊してくださるご家族もいる。		常に訪問しやすい環境作りを心がけ、気持ちよく過ごせるよう配慮に努めたい。また、スタッフはご家族、親戚だけでなく、友人の方の顔を覚え、町内などでお会いした際は訪問に来ていただけるように声かけしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームには身体拘束マニュアルがあり、いつでも確認できるようになっている。また、管理者やユニットリーダーは身体拘束防止についての研修に参加している。また、ユニットリーダーが身体拘束のないよう常に職員のケアを確認している。		身体拘束防止の研修会などに職員も参加し、常に問題意識を持ち、身体拘束をすることのないように全職員で取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は玄関の鍵を一切かけないようにしている。また、本人が外出する際、居室の鍵をかけて欲しいと申し出があった場合は、鍵をかけたりすることもある。夜間居室に自ら鍵をかけ就寝する入居者に対しては、巡視時に鍵を開け対応しているが、そのことを本人にもきちんと説明し、納得していただいている。</p>	<p>鍵をかけなくても大丈夫だという安心感で、気が緩むことのないよう、しっかりと見守りを行っていきたい。</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>居室に入室する際は必ず、ロックや声かけをしている。また、洗濯物を干したりする際に本人が居室にいない時は、本人に入室の用件を伝えるようにしている。居室にて過ごしている際は、時々訪室し声かけをするなど、本人の様子を確認している。常に入居者の所在が確認できる位置に職員がいるように努めている。</p>	<p>自ら居室に鍵をかける入居者に対しては居室での転倒等がないように十分注意していきたい。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>各居室に関しては、本人の状態にもよるが基本的には物品の持込みを制限していない。また、食堂やリビングなどの共有スペースに関しては、注意が必要な物品は何か、危険要因は何か、どのような管理方法をとっていくかを必要に応じて検討している。はさみ、包丁などの刃物は、入居者の希望に応じお貸しし、職員の目の届く範囲で使用していただき、使用後は必ず確認している。</p>	<p>今後も注意が必要な物品などを一律に取り去ってしまうのではなく、どのようにすれば危険要因にならないかを職員間で話し合い、意識を高めていけるようにする。また、今までは大丈夫だったから、今後も大丈夫という安心感を持たないようにする。</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故が発生した場合は、速やかに事故報告を提出するように指導している。また、事故報告書を全職員が確認している。再度同じような事故が起きないように努めているが、同じような事故が続けて起きる場合もある。</p>	<p>今後は事故が発生する時間帯や原因、スタッフの配置など色々な角度から分析し、再発防止に努めたい。また、事故防止についてスタッフ会議等で話し合っていきたい。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>急変時対応マニュアルがホームあるが、掲示までではない。また、応急手当や初期対応の訓練をおこなっていない。</p>	<p>緊急時対応マニュアルを簡潔にし、目に入るところに掲示する。避難訓練時などに合わせ、急変時の対応なども再確認していきたい。また、普通救命講習会を全職員が受講するようにしたい。更新も含めて定期的に参加していきたい。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難訓練を4月に予定している。また、地区の親睦会など近所の方が集まった際には、地域の方の協力が得られるように働きかけをしている。</p>	<p>万が一の時に職員全員が焦らず、適切に行動することができるように訓練を重ねていきたい。その他、地区の消防団等に協力要請する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>本人の身体状況で起こりうるリスクについては、ご家族に説明を行い、理解していただくように努めている。また、対応や取り組みは家族と相談しながら行なっている。家族とスタッフが常日頃の信頼関係を築くことも大切だと実感している。</p>	<p>高齢者の生活にはリスクがあることを理解していただくとともに、日常の様子を見ていただいたり、説明したりして本人の状態を知っていただく。また、本人の活動範囲を制限することなく生活できるように支援していきたい。今後も、家族との信頼関係を築いていきたい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日定時にバイタル測定を行い、食事摂取量や排泄回数なども記録している。また、変化があった場合は、本人に体調を聞いたり様子観察を行い、ユニットリーダーや管理者に速やかに連絡し、必要に応じては受診している。記録や申し送りにて全職員が情報を共有し対応している。</p>	<p>今後も定時のバイタル測定を行い、本人の健康管理に努めたい。また、本人の小さな変化やサインを見逃さないようにしていきたい。また、どんな小さなことでも自己判断せずに、ユニットリーダーや管理者に相談したり、受診したりする。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員全員が使用している薬の目的や副作用、用法や用量についての理解をしていない。しかし、分からない場合は薬剤師に確認している。また、服薬内容の変更や症状の変化については、申し送り等で情報を共有し、服薬管理、服薬の支援に努めている。</p>	<p>入居者が服薬している薬の名前と目的、副作用程度は把握するように努めたい。また、調剤薬局では分かりやすく薬の説明が書いてあるものをくださるので、今後活用していきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘になると不穏状態になる方もいる。病院から下剤をいただいている方もいるが、水分を多めに摂っていただくような声かけをしている。また、食物繊維の多い食物を摂取したり、オリゴ糖を使用したりしている。適度な運動をしていただくようにも促している。便秘の訴えが強い方に関しては漢方薬にて対応している。</p>	<p>水分を多めに摂取していただき、食物繊維の多い食材を取り入れたメニューにするなど、日頃から便秘対策を行なっていきたい。また、極力食物や運動などで自然排便を促したい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>入居者の方一人ひとりの意思がある方に関しては、毎食後の口腔ケアができていない。8020で受賞された方が1名いる。</p>	<p>自立で口腔ケアをしている入居者に対しては、声かけのみで確認まではしていない。今後、本人に失礼のないように配慮し確認の方法を検討していきたい。また、8020の受賞された方の維持、今後他の入居者も受賞できるように支援していきたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分補給は本人の嗜好も考慮し、声かけ支援している。食事やおやつの時以外でもこまめに摂取していただくように心がけている。水分摂取量は1日に1000mlから1500mlを目安に摂取していただくよう努めている。また、食事はカロリー計算まではしていないが量や栄養バランス、入居者の嗜好を考慮している。摂取量、摂取状態を記録し、情報を共有している。</p>	<p>栄養バランスも大切だが、高齢者は栄養摂取が大切だと考える。バランスのとれた食事を提供しても1品しか食べなければ意味がない為、嗜好を考慮した食事の提供をしていきたい。また、ゆっくり食事を食べる入居者の方に対しては、急かさず、食べ終わるまで待つようにしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがある。外出した際は、うがい手洗いをさせていただきようになっている。来所された方にも入口にて手指の消毒やマスクの着用をさせていただきようになっている。その他、インフルエンザ予防接種を受けている。		入浴は一人ずつ行い、その都度お湯の入れ替えをしている。また、洗濯物も一人ずつ洗濯している。失禁した衣類については消毒してから洗濯している。現時点で感染症になっていない為、今後も継続して行なっていきたいと考えている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理の際はきちんと手洗いをし、必要に応じてマスクをするようにしている。食材は賞味期限や品質保持期限を確認し、新鮮なうちに調理するようにしている。また、布巾や台布巾、まな板は夜勤者が夜中に漂泊し、使用している。その他、包丁などの調理器具は次亜塩素酸で消毒している。		今後も食中毒には十分注意し、おいしく、楽しい食事を提供していきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすく家庭的な雰囲気を出すように努めているが、もともとペンションの為、なかなか困難である。また、玄関先で休むことができるようにベンチを置いてある。その他、花の寄せ植えを置いたり、庭木を植えたりしているが、冬場は寒くて手入れが行き届いていない。		玄関先のベンチにはよく入居者が腰掛け会話を楽しんでいるが、近所の方も腰掛けて話ができるようにしていきたい。季節を感じる庭木や花を増やして、きちんと手入れもできるようにしていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を出すように努め、こたつなどを置いている。玄関や廊下、居間などの壁には絵や花を飾っており、テレビの高さやカレンダーの高さは入居者の目線に合わせている。居間があまり広くはない為、あまり飾り過ぎるとゴチャゴチャしてしまう。また、季節感を感じるような飾りが少ない。		居間はあまり広くはないが、入居者の方にとっては家庭に近く落ち着ける空間になっている。また、居間などの共有空間にも入居者の好みを反映させたい。その他、入居者の作品なども飾りたい。季節感を感じるような飾り付けをしていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルは入居者それぞれ所定の席があり、落ち着いて過ごされる。また、共有空間のソファは入居者の方の生活スタイルに合わせて配置換えをしている。入居者一人ひとりが、その日の気分でソファやこたつ、テーブルとくつろぐ場所をかえている。共有スペースは狭く、独りになれる空間がない。		共有空間では入居者それぞれの過ごし方がある。また、共有空間で進んで独りになることはなく、他の入居者や職員のいるところに集まる為、あえて独りになれる空間を作ることは考えていない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の説明時には、必ず本人の馴染みの物や使い慣れた物を持参していただくようお願いしている。独居だった方は本人の好みに応じた居室になっている。また、テレビや仏壇なども持ってきていただいている。しかし、中には馴染みの物がほとんどなく殺風景な部屋の方もいる。</p>	<p>居室は本人が居心地良く感じ、落ち着いて過ごせる空間にしたいと考えている。ご家族にも継続して声かけし、ようやく理解されてきたようです。本人の馴染みの物ではなくても、本人の好みに合わせた空間作りができるよう検討していきたい。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>リビング、トイレ、洗濯室など24時間の換気システムになっている。温度計と湿度計をこまめにみて温度調整をするように努めている。山間部の為、冬場は室温と外気温の差が大きく、入居者が寒がるのでリビングの換気がこまめにできない。</p>	<p>健康のためにも朝の空気を取り入れるようにしている。また、居室で過ごす時間の多い入居者に対しては、居室にいない時間に換気をするようにしていきたい。においが気にならないようにこまめの換気を心掛けている。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>共有空間があまり広くない為、手を伸ばすと手すりに手が届く。移動の距離が短い為、歩行困難な入居者でも見守り等で移動が可能である。また、家具は本人が自立した生活を送れるように検討した上で配置している。トイレはどんな方にも対応できるようにアコーディオンカーテンで、万が一の際には開放できるように工夫してある。</p>	<p>本人の身体状況が変化した際は、それに応じて工夫していきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>本人が出来ることは、声かけをし本人をお願いしている。また、本人の得意なことや苦手なことを把握し、役割を持っていただくようにしている(例えば、調理、盛り付け、配膳、片付け、掃除、草むしりなど)。生活の中で楽しみながら自立した生活が継続できるように支援している。掃除用具のほうきやちりとりは目につく位置に整理をし、いつでも自由に使えるようにしている。</p>	<p>今後も本人の出来ることは、出来る限り見守り、自立した生活を継続できるように支援していきたい。</p>
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>いつでもベランダに出られるように、外用のサンダルを置いている。また、プランターに花を植え、入居者の方が花のお世話をしてくださっている。また暖かい日には玄関先にあるベンチに腰掛け、外の景色を眺めながらお茶を飲んだり日光浴をしたりしている。草むしりをしたりし、散歩をするなど適度に体を動かしている。</p>	<p>建物の周りが少し斜面になっている為、ふらつき転倒する可能性がある。今後改善するのは困難だが、事故のないように十分注意して外での活動を楽しめるよう支援していきたい。また、敷地が広いので、有効活用できるように検討していきたい。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	その他( )
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他( )
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	その他( )
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	その他( )

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	その他 ( )
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	その他 ( )
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他 ( )
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	その他 ( )

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは猪苗代の中ノ沢温泉街の近くにありますが、山間部の為、たくさんの緑に囲まれ、のどかなところです。1階と2階の2ユニットで入居者は女性14名、男性4名の計18名です。また、ご夫婦で入居されている方が1組いらっしゃいます。

ホームの理念は「いつまでもその人らしく なじみの地域で わが家のように温かく しあわせに笑顔あふれる ろうごを共にくらす」です。全職員が一丸となり作ったものです。職員は自分たちで作ったということもあり、常に意識し理念に沿ったケアを目指しています。その為、「いつまでもその人らしく」ということでセンター方式を活用し、本人を知るようにしています。また、ホームから別の居所へ移り住む際には、センター方式を引き継げるようにしたいと考えています。「なじみの地域で」ということで地域の行事や他のサービス事業所のお祭りなどに積極的に参加するようにしたり、知人や友人との関係も途絶えることのないように努めています。「わが家のように」ということで家族のようなきめ細やかなケア、安心できる関係作りを心がけています。「しあわせに笑顔あふれる」ということで入居者の笑顔がたくさん見ることができるよう、また職員も笑顔を絶やさないようにしています。「ろうごを共にくらす」ということで支援する側、支援される側という関係ではなく、お互いに支え合いながら喜怒哀楽を共に感じることができるよう目指しています。

まだ、開所まもなく未熟なところもたくさんありますが、理念に沿ったケアを実現する為に努力しています。